

IDL 8.7 リリースノート

Note

最新の情報に関しては、下記のリンクを参照してください。

<http://www.harrisgeospatial.com/ProductsandTechnology/Software/IDL.aspx>

これらリリースノートは次の項目に分かれています。

- IDL8.7 のサポートプラットフォーム
- IDL8.7 の新機能
- IDL8.7 の下位互換性の問題
- IDL8.7 既知の問題
- IDL8.7 で修正された問題

IDL8.7 のサポートプラットフォーム

IDL8.7 のサポートプラットフォームを以下の表に示します。

これからソフトウェアをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、ライセンス認証にはネットワークカード (NIC もしくは Ethernet) を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	ハードウェア	オペレーティングシステム	サポートバージョン b
Windows	Intel / AMD 64-bit a	Windows	7 SP1, 8, 10
Macintosh	Intel 64-bit	OS X	10.10, 10.11(El Capitan) c
UNIX	Intel / AMD 64-bit	Linux	Kernel 2.6.32 glibc 2.12

a: IDL8.5 より Windows は 64-bit OS のみのサポートとなります。32bit モードの IDL を起動する場合は、「ENVI5.5/IDL8.7 インストールガイド」の「Windows 版 ENVI/IDL の起動方法」をご確認ください。

b: サポートされているバージョンは、当該バージョンで IDL が構築されているか（表中の最低バージョン）、またはテスト済みであることを示しています。表に記載されたバージョンとバイナリ互換があるバージョンであれば、IDL のインストールと実行が可能です。

c: Macintosh 版のインストールには、Apple X11 X-window マネージャが必要となります。X11 がインストールされていない場合は、XQuartz よりインストールを行ってください。XQuartz2.7.11 にて動作確認されています。

ライセンスサーバーのサポートプラットフォーム

本製品をフローティングのライセンスのサーバー機として使用する場合には、ライセンスサーバー（Flexnet License Server）を使用します。そのライセンスサーバーのサポートプラットフォームを以下の表に示します。なお、MacOS はフローティングサーバーとしては動作いたしません。

ライセンスサーバーをインストールするマシンが以下の条件を満たすかどうか、必ずご確認ください。また、フローティングライセンスに関しても、ライセンス認証にはネットワークカード（NIC もしくは Ethernet）を介した、インターネット接続が必要となります。

プラットフォーム	CPU アーキテクチャ	サポートバージョン
Windows 64bit	x86-64	Windows Server 2008, 2012 Windows 8, 10
Linux	x86-64	Cent OS 6.x Cent OS 7.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.x Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.x Ubuntu 16

その他：

搭載されているグラフィックボードのドライバを最新にアップデートすることを推奨します。各製品の Help は HTML5 対応ブラウザを必要とします。

IDL8.7 の新機能

新機能に関する情報は IDL ヘルプの”What’s New”をご確認ください。

IDL8.7 の下位互換性の問題

特にありません。

IDL8.7 の既知の問題

問題が起こった際は、リリースノートの既知の問題を参照してください。ID 番号はお客様からのお問い合わせに早急に対応できるよう記されています。

全プラットフォーム対象

ID	解 説
N/A	IDLffVideoWrite でアニメーション GIF が作成できない
ffmpeg ライブラリ提供元の問題により、IDLffVideoWrite はアニメーション GIF ファイルを作成できません。WRITE_GIF ルーチンをご使用ください。	
IDL-42545	DRAG_NOTIFY Callback ルーチンにエラーがあった場合、 WIDGET_TREE Drop イベントは IDL をクラッシュさせる原因となる
カスタム DRAG_NOTIFY コールバックルーチンで(変数が定義されていないような)エラーが発生した場合、そのエラーが子プロセスのルーチンを止め、IDL はフリーズまたはクラッシュします。そして IDL はコーリング機能に戻ることができません。 回避策：作成しているコードに CATCH statements を使用し、根本的なエラーを制御するようにしてください。詳細は"Responding to Drag Notifications (Callbacks)"のドキュメントを参照してください。	
IDL-55393	リンク、ショートカット、代替パスを介して開かれたファイルのブレイクポイント
IDL は常にパス内で検索されたファイルの最初のバージョンをコンパイルします。エディタ内でファイルを開き、ブレイクポイントを設定し、違うパスの同じファイル名のプログラムをコンパイルした場合、IDL は二つのファイルは同じだと仮定します。その結果、IDL は二つ目のファイルに設定されたブレイクポイントで停止しません。同じファイルへの代替パスは UNIX のリンク、Windows のショートカット、ドライバのマッピング、または UNC パスを介して構成されます。 回避策：コンパイルしたファイルのフルパスとブレイクポイントを設定したファイルのパスが同じフルパスで設定されているかを確認してください。IDL ワークベンチのメニューまたはツールバーを使用しコンパイルを行った場合は、編集とデバッグに使用されているパスが同じかどうか確認してください。	
IDL-49236	開いているプロジェクト内でプロジェクトおよびディレクトリを削除するとワークベンチを終了する際にエクセプションエラーとなる

<p>開いているプロジェクト内でプロジェクトファイルおよびディレクトリが削除された際(例えば、Windows Project Explorer から)、ワークベンチが実行中には警告メッセージが発生し、終了する際にエクセプションエラーが発生します。</p>	
<p>IDL-51318 IDL-51322</p>	<p>Formatter Preferences のキーワード、システム変数、クラス名は Source →Format コマンドでは無視される</p>
<p>キーワード、システム変数、構造体やクラス名がウィンドウ→設定→IDL→フォーマッタから設定できますが、コードがハイライト(選択)されているおよび Source→Format コマンドが選択されているときは設定が適用されません。</p>	
<p>IDL-58532</p>	<p>デフォルト UTF-8 エンコードは.pro ファイルの英語ではない文字で文字化けを起こす</p>
<p>IDL ワークベンチにインポートされると、英語ではない文字はシンボルに変換されます。インポートする.pro ファイルに英語ではない文字が入っていた場合、文字化けを起こしたファイルになります。</p> <p>回避策: ファイルを開く前または開いているファイルを保存する前に、ファイルのエンコーディングをスペイン語とドイツ語は ISO-8859-1 へ、日本語は Shift-JIS へと変更してください。変更はファイル→プロパティを選択し、表示されたウィンドウのテキスト・ファイル・エンコードから行えます。</p> <p>エンコーディングのプリファレンスの変更はウィンドウ→設定→一般→ワークスペースから行ってください。</p>	
<p>IDL-57214 IDL-58285 IDL-58839</p>	<p>GL ドライバ上で画像処理の操作をしていると IDL は (マッキントッシュとユニックス上で) クラッシュする</p>
<p>回避策: bin¥bin.<platform>にある gl_driver.so ファイルの名前を変更してください。たとえば、gl_driver.so を gl_driver.ba というように変更し、この回避策があなたのシステムに有効かどうか確認してください。</p>	
<p>IDL-60473</p>	<p>IDL がビジー状態の際に設定(Preference)を開くとワークベンチがハングする可能性がある</p>
<p>IDL がビジー状態の(長いコマンドが実行された)際に設定(Preference)を変更しようとするワークベンチがハングする可能性があります。</p>	
<p>IDL-63902</p>	<p>IDL_Java Bridge を使用すると、ワークベンチでは CLASSPATH のカレントディレクトリを無視する</p>
<p>回避策: CLASSPATH に明示的に示されているパスへ.class ファイルをコピーしてください。</p>	
<p>IDL-69848</p>	<p>CONTOUR 関数を使用しているときの COLORBAR 関数の起動について</p>
<p>COLORBAR 関数は CONTOUR 関数とともに使用した場合には、正常に動作しません。以下のキーワード / オプションが正常に動作しないように思われます。</p> <p>Label, value, tick, color</p>	

IDL-69817	IDL ワークベンチで CD コマンドによってディレクトリを変更した際に、開いている IDL ソースファイルのアウトラインビューがクリアされる。
アウトラインビューを有効にする場合、プロジェクトエクスプローラで同じプロジェクト内の別のフォルダを右クリックし、「選択した作業ディレクトリを現在の作業ディレクトリとして設定」を選択します。開いているソースのアウトラインビューが消去されます。	
IDL-69856	プロシージャをコンパイルした後に.RNEW プロシージャを実行すると IDL/IDL ワークベンチがクラッシュする
N/A	
IDL-69885	SCALE_FACTOR に 1.00 より小さい値が設定された後では、1.00 には戻らない。
ある IMAGE を WIDGET_WINDOW に表示し、SCALE_FACTOR を 1.0 未満の数値に設定してから 1.0 をリセットすると、結果の SCALE_FACTOR は 1.0 になりません。	

Macintosh プラットフォーム対象

ID	解説
IDL-60599	Macintosh OS 上では一度に一つのワークベンチのインスタンスしか実行できない
<p>ウィンドウ→設定→一般→Startup and Shutdown→Workspaces の Prompt for workspace on startup のチェックボックスにチェックが入っており、複数のワークスペースが利用可能な設定になっていても、一つのインスタンスしか実行できません。</p> <p>回避策：インストールディレクトリの idlde.darwin.x86_64.app/Contents/MacOS 配下にある init スクリプトからワークベンチを起動させてください。</p>	
IDL-64149	ウィジットインターフェースは、ドロップダウンリストで選択された場合、フォーカスを失う
回避策：X11 のプリファレンス設定にて、Click-through Inactive Windows を有効に設定してください。	
IDL-67319 IDL-67320	グラフィックスレンダリングはメモリとデバイスエラーの原因になる
<p>XQuartz バージョン 2.7.2 は IDL のグラフィックス作成時に、メモリとデバイスエラーの原因になります。IDL をインストールする際に、MacOS は XQuartz の最新バージョンをインストールするように促すことがあります。</p> <p>回避策：XQuartz のバージョン 2.7.11 を使用してください。</p>	
IDL-68845	Macintosh 上で IDL ワークベンチを起動する際に、Java v1.6 のインストールを促すことがある
Java v1.6 がインストールされていない Macintosh 上で、IDL ワークベンチを起動する際、	

<p>MacOS は Java v1.6 をインストールするように促ことがあります。IDL が Java v1.7 を含んでいた場合でも、発生します。この問題の詳細については、以下の URL を参照してください： http://stackoverflow.com/questions/11919004/eclipse-4-2-mac-os-x-10-8-ml-and-java-6</p> <p>回避策：インストールを促された Java v1.6 をインストールしてください。ワークベンチは IDL がインストールされた際に一緒にインストールされる、Java v1.7 を引き続き使用します。その他の回避策としては、上記の URL で説明されているように、Frameworks 1.6 -> 1.7 というように、ソフトリンクを作成してください。</p>	
IDL-69858	英語でない言語設定で IDL ワークベンチを Mac OS X 10.13 (High Sierra) 上で起動したとき、ワークベンチのメニューが使用できない
Mac OS X 10.13 (High Sierra)では、IDL ワークベンチのすべてのメニューがグレイアウトします。	

Windows プラットフォーム対象

ID	解 説
IDL-48454	WIDGET_TIMER はアプリケーションが次のイベントを送信されるまでフリーズする原因となる
<p>WIDGET_TIMER イベントは 10 のイベント後、エラーになります。このエラーは以下のような場合発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイマーイベントは次のタイマーが現タイマーの中にあるような設定で一続きにされます。そして、イベントハンドラの"work"セクションの前で実行されます。 ・タイマーイベントが実行している際に、次のタイマーが切れてしまった(例えば、計算が長い)場合。 <p>回避策：全ての計算が終了してから、次のタイマーを設定するようにタイマーイベントをつなげてください。マシンスピードによりますが、スムーズに処理するために計算の実行にどのくらいかかるかを基本とし、次のタイマーを設定してください。例えば、次のタイマーを毎秒一度タイマーを実行することや、1.0(計算実行時間)、値がマイナスの場合は 0.0 と設定します。</p>	
IDL-49641	IDL がビジー状態またはブロックされている際、編集した変数の値を更新すると時間がかかる
IDL がビジー状態の間(例えば、長くかかるコマンドが実行される、または widget アプリケーションにブロックされている)際、IDL ワークベンチの変数ウィンドウを使用して、変数の値を編集すると、変数が更新されていないように見えますが、新しい値は IDL がビジー状態ではなくなった際に表示されます。(ID 49604 の問題と関連があります。)	
IDL-61842	Windows7 上の IDL はグラフィックスを使用する際、予期しない挙動をする可能性がある
原因としてはグラフィックガードが Windows7 でサポートされていないことが考えられます。	

<p>マイクロソフトのウェブサイト(Microsoft.com)でサポート情報を確認してください。グラフィックスのドライバを更新するか、IDL のグラフィックスの設定をソフトウェアレンダリングに変更してください。</p>	
IDL-66357	マルチバイト文字を使用したディレクトリに IDL をインストールした場合、IDL ワークベンチが起動しない原因となる
<p>IDL をマルチバイト文字が入ったディレクトリへインストールした場合、idlde.ini ファイルへのパス名が正しく認識されない可能性があります。</p> <p>回避策 32bit 版 :</p> <p><install_dir>%IDL86%bin%bin.x86%idlde.ini ファイルの以下行のパス情報を編集ください。</p> <p>2 行目: <install_dir>%IDL86%bin%bin.x86%jre%bin</p> <p>14 行目: Dosgi.sharedConfiguration.area=<install_dir>%IDL86%bin%bin.x86%configuration</p> <p>回避策 64bit 版:</p> <p><install_dir>%IDL86%bin%bin.x86_64%idlde.ini ファイルの以下行のパス情報を編集ください。</p> <p>2 行目: <install_dir>%IDL86%bin%bin.x86_64%jre%bin</p> <p>14 行目:</p> <p>Dosgi.sharedConfiguration.area=<install_dir>%IDL86%bin%bin.x86_64%configuration</p>	
IDL-66363	COM_idl_connect.tlb を使用した C++プロジェクトの実行には%bin ディレクトリに実行スクリプトを配置する必要がある
<p>COM_idl_connect.tlb を使用した C++のプロジェクトを作成した際、実行するためには.exe ファイルを<install_dir>%bin%bin.x86 または<install_dir>%bin%bin.x86_64 へ配置する必要があります。あるいは、PATH 環境変数に install パスを追加することでも実行できます。</p>	
IDL-69849	大容量の jpeg2000 形式のファイルを書き込み処理した場合、IDL がクラッシュする
N/A	
IDL-69852	GEOS-R の投影が MAP 関数で正しく扱えない
N/A	
IDL-69854	WV_CWT が離散ウェーブレットファミリをサポートしていない
<p>IDL では依然として、ウェーブレット変換を行う WV_CWT 関数で HAAR や SYMLET といった離散ウェーブレットファミリをサポートしていません。</p>	
IDL-69860	NCDF_GET 関数に対して奇数の次元が入力された場合、戻り値の次元が誤ったものとなる
<p>NCDF_GET 関数を使用して奇数次元を持った NetCDF の 3 ファイルから変数#1 の次元を取得しようとした場合、IDL は変数#2 の次元を返します。</p>	
IDL-69870	最新の Windows 10 アップデートによって、IDL グラフィックテキストの

	保存がうまくいかなくなる。
Windows 10 Version 1709 (10/18/17 リリース) を行った場合、IDL グラフィックスをファイルに保存するときに問題が発生します。 テキストボックス全体が色付けされてしまいます。	
IDL-69873	Linux-BASH が有効な Windows 10 上で管理者以外が IDL ワークベンチ(64 ビット)を起動した際、起動に失敗する。
Windows 10 マシンで Linux サブシステムがアクティブになっている場合、管理者以外のユーザーには 64 ビットの IDL ワークベンチを起動することができません。 ワークベンチは開きますが、ハングします(「応答していません」と表示されます)。 また、IDL コンソールには情報がロードされません。	

UNIX プラットフォーム対象

ID	解 説
IDL-14221 IDL-30564	Modal Widget から DIALOG_PRINTERSETUP を呼ぶことは IDL がハングする原因になる
DIALOG_PRINTERSETUP を Modal Widget で使用しないでください。現状、それ以外の回避策はまだ分かっておりません。	
IDL-41964	Linux のセキュリティが強化されている環境では IDL が実行できない
<p>最近の Linux の一部のバージョンは Linux Security Modules framework を使用し Linux カーネルで強制アクセスコントロールが実装されています。 その様な環境で IDL を動作させるためには IDL バイナリのためにセキュリティの編集が必要です。</p> <p>回避策：</p> <p>SELinux を”disable”と設定するか、IDL が動作できるようにセキュリティを変更してください。詳細は下記リンクを参照してください。</p> <p>http://harrisgeospatial.com/Support/SelfHelpTools/HelpArticles/HelpArticles-Detail/TabId/2718/ArtMID/10220/ArticleID/19352/3092.aspx</p>	
IDL-43301	ツリーウィジットの左上部の端は配置できない
ツリーウィジットノードのドラッグ&ドロップが有効になった際、UNIX ツリーウィジットは左上部端を配置できる有効な場所だと認識しません。この場所は通常、初めの二つのノード(ラベルではありません)のアイコン上に持っていきことができます。マウスカーソルをアイコンの代わりにラベル上に動かし、初めの二つのノードに配置することができます。これはベンダー側の問題です。	
IDL-55427	IDL Dataminer は libstdc++が必須ライブラリである
IDL Dataminer モジュールは、サードパーティのライブラリを使用していますが、そのライブラリは一部の最新の Linux システムにはデフォルトでインストールされていない可能性があります。	

<p>IDL Dataminer を実行しようとした結果、以下のようなエラーが発生します。</p> <p>% DLM_LOAD: Error loading sharable executable.</p> <p>Symbol: IDL_Load, File =/rsi/qa/unix/idl71/bin/bin.linux.x86_64/idl_dataminer.so</p> <p>libstdc++.so.5: cannot open shared object file: No such file or directory</p> <p>% Execution halted at: \$MAIN\$</p> <p>ご使用のプラットフォームに適切な libstdc++ compatibility library をインストールください。</p>	
IDL-57381	64bit ライブラリのインストール
<p>RedHat では libXp の 64bit バージョンのパッケージが必要です。</p> <p>そのライブラリは RHEL や Fedora など Red Hat を基本とした Linux ではデフォルトでインストールされておりません。</p> <p>以下のコマンドで必要なライブラリを取得することが可能です。</p> <pre>yum install libXp.x86_64</pre>	
IDL-58106	Linux64bit 上で実行しているワークベンチでは DIALOG_PRINTERSETUP がクラッシュする
<p>ワークベンチから DIALOG_PRINTERSETUP を呼ぶことは 64 bit IDL がクラッシュする原因となります。</p> <p>回避策 : IDL のコマンドラインモードで DIALOG_PRINTERSETUP を呼び、プリンタを設定してください。プリンタを設定すると、その情報はホームディレクトリにキャッシュされます。プリントの IDL プログラムはワークベンチやコマンドラインということは関係なく適切に動作します。</p>	
IDL-58460	新しいグラフィックスは Linux の Ubuntu バージョンがクラッシュする原因となる
<p>最近の Ubuntu のバージョンおよびその他 Debian を基本とした Linux では Xerces に必要な libstdc++.so.6 ライブラリがインストールされません。ライブラリをダウンロードし、IDL のインストール先の/bin/bin.linux.x86 ディレクトリにインストールしてください。(64bit インストールでは、/bin/bin.linux.x86_64 ディレクトリへインストールしてください。)</p>	
IDL-59497	IDL グラフィックスは Linux 上でのソフトウェアレンダリングでエラーになる
<p>Linux マシン上でディスプレイがローカルおよび Xinerama が有効になっていない場合、ワークベンチの IDL グラフィックスはソフトウェアレンダリングモードでエラーが発生する可能性があります。</p> <p>回避策 : Xinerama を設定していただくか、IDL のコマンドラインを使用してください。</p>	
IDL-68960 IDL-68965	Java-IDL Bridge の Drawable Window はソフトウェアレンダリングでは、正しく表示されない可能性がある
<p>Java-IDL Bridge の Drawable Window はソフトウェアレンダリングでは、正しく表示されない可能性があり、問題となることがあります。現象としては、ウィンドウに何も描画されません。</p>	

<p>この問題は、IDL ドキュメント(IDLWindowExample.java and IDLgrWindowExample.java) 中にある、サンプルコードにも影響があります。</p> <p>回避策：Drawable Window に何も表示されない場合、Drawable Window のプロパティ (RENDERER)をハードウェアレンダリング(RENDERER を 0)へと変更してください。</p>	
IDL-69332	一部の Linux システムにてヘルプ設定の選択の際 IDL ワークベンチがクラッシュする可能性がある
<p>一部の Linux システムで Window > Preferences > Help を選択すると IDL ワークベンチがクラッシュする可能性があります。</p> <p>回避策：idlde.ini ファイルを開き-vmargs 行を探し、次行に以下の新しい行を追加します。</p> <p>-vmargs 行</p> <p>-Dorg.eclipse.swt.browser.DefaultType=Mozilla</p>	

IDL8.7 で修正された問題

ID	解説
IDL-69027	IDL8.x のヘルプで Index タブの動作が遅いという問題については、修正されました。部分単語検索の設定を無効にすることで、索引検索フィールドに入力があるたびに全ての文字の組み合わせを検索するという処理は行われなくなりました。
IDL-69670	二項関数 BINOMIAL の計算結果がユーザーの意図したものと異なるという問題については、IBETA アルゴリズムを使用するように関数を修正しました。
IDL-69747	Mac OS X、Linux および Solaris 環境で make_rt を使用する場合は、オリジナルの製品インストールディレクトリの場所からでしか使用できないようにハードコードされていました。IDL_DIR の設定を考慮するように startapp スクリプトに変更を加えることで、この問題は解決しました。
IDL-69799	JSON_PARSE 関数と JSON_SERIALIZE 関数で DOUBLE 型の値が不一致していた問題は、JSON_SERIALIZE の精度を更新することで解決しました。
IDL-69845	RDPIX.pro が IDL8.6.1 で正しく動作しない問題は解決しました。
IDL-69834	64 ビットアドレッシングに関する問題は解決しました。
IDL-69876	X/Y 座標が設定されていて、それを逆にする必要のある 3 バンドのピクセルデータを IMAGE 関数で処理する場合、エラーが発生する問題がありました。これに対しては 3 バンドのうちどれが X/Y 座標であるかを判断してから Reverse 関数を実行するように変更を加えることで対処しました。同様の変更は IDLitVisImage::_SetData にも適用されています。